

# 子どもの遊び空間としての街区公園の評価とその方法に関する研究

BR14048 小暮 鈴香  
指導教員 鈴木 俊治

## 1. 背景・目的

近年、子どもの外遊びが減少し、心身の成長に影響が出ていることが社会問題となっている。主な要因としては遊び空間・遊び仲間・遊び時間の減少、遊び方の変化の4つが挙げられている。日常生活で子どもが外遊びを気軽にできる場としては街区公園が設けられているが、それにふさわしい空間となっているか。もしそうでないのであれば、今後どのようにあるべきか。

そこで本研究では、街区公園をとりまく様々な物的・社会的要素が、どのように子どもの遊びに影響しているのかを明らかにするための現状調査と、その結果に基づいた評価・考察を行う。

## 2. 研究方法

春日部市豊春小学校区を対象地とする。まず豊春小学校区の全ての街区公園についての基礎的な現状分析を行う。その後選定した10の公園については詳細調査として観察調査、カウント調査、マッピング調査を行う。その結果を評価シートに整理する。

## 3. 対象地の概要



図1. 対象地区の位置

春日部市の南東部に位置する。人口はおよそ22,000人で、1975年より増加し続けていたが、2005年以降減少に転じ、以降大きな変動は見られない。一方世帯数は2005年以降も僅かに増加している。豊春小学校の児童数は1983年以降急激に減少し、2017年にはピーク時のおよそ半数の621人となっている。(※平成29年現在)



図2. 豊春小学校区の人口推移

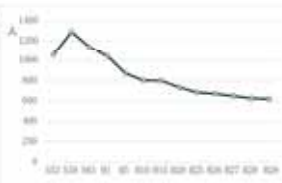


図3. 豊春小学校の児童数推移

## 4. 豊春小学校区の街区公園の構成 (基礎調査)

豊春小学校区の公園の現状把握のため、春日部市の豊春地区都市公園台帳を用いて24公園を調査した。

### 4-1. 面積・形状

面積については、半数以上の公園が250㎡未満と、小規模な公園が多いことが分かる。

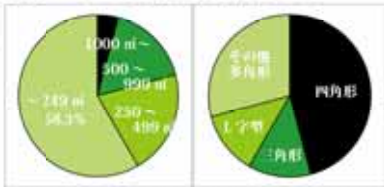


図4. 面積別公園の割合

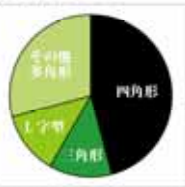


図5. 面積別公園の割合

1000㎡以上の公園は2つのみである。公園の形状については、半数近くが四角形である。接道状況は1辺のみが14箇所である。

### 4-2. 入口の数

公園の入口の数は、14の公園で1箇所のみである。接道状況と合わせて考えると、1辺のみに接している公園が14箇所であることから、1辺に対して1箇所の入口である場合が多い。

表1. 入口数

数	設置箇所	割合
1	14	58.3%
2	6	25.0%
3	4	16.7%

## 4-3. 遊具

遊具で最も設置率が高かったのは砂場で83.3%、次に滑り台で70.1%、そしてブランコ58.3%であった。1956年に施行された都市公園法ではブランコ、砂場、滑り台などの遊具の設置が義務付けられていたためと考えられる。また、遊具の設置数においては2種類もしくは3種類設置されている公園が多い。



図6. 遊具別設置箇所の割合 (上位5つ)

表2. 遊具の設置数

遊具数	設置箇所	割合
1種類	3	12.5%
2種類	7	29.2%
3種類	8	33.3%
4種類	2	8.3%
5種類	4	17.7%

以上のことから春日部市豊春小学校区の街区公園は、三方を宅地で囲まれている四角形で、主に砂場もしくは滑り台を含む3種類の遊具とベンチが備えられていることが典型的な姿として見出された。

## 5. 詳細調査の方法

### 5-1. 調査対象公園の選定

24の公園の中から、詳細調査を行う公園の選択基準は以下の2点とした。

- ・面積や形状、接道、遊具の種類に偏重がないこと。
  - ・区域全域に分散すること。
- 選択した10の公園について観察調査、カウント調査により、公園の現状及び利用実態の把握と評価を行った。

### 5-2. カウント調査の方法

- 調査は以下の方法で行った。
- ・調査は各公園計4日間 (平日のみ)
  - ・1回の調査時間は30分毎に5分間
  - ・調査開始時刻は14:30
  - ・1日目は6回、2日目以降は5回で合計21回の調査とする

表3. カウント調査の対象

交通	歩行者のみ	自転車のみ	自動車
歩行者のみ	歩行者	自転車	バイク
利用者	性別	年齢層	グループ
男	幼児	小学生	活動内容
女	小学生	付添	活動場所
			その他

### 5-3. 公園の現状評価

公園を評価するに当たり、表4に示す代表的な5つの評価軸を設け、さらにそれぞれについて評価項目を設定した。各項目には評価基準を設け、観察調査とカウント調査の結果に基づき-2から+2の5段階で評価した。

表4. 評価項目

評価軸	面積	人の目	環境	遊び	交通
評価項目	面積	周囲の状況 人通り 自転車通り 入口 接道	ベンチ トイレ 駐輪場 ゴミ箱 時計 植栽 注意書き	種類 状態 水道 オープン スペース	車通り 路上駐車 速度 道幅 歩道

表5. 評価基準 (一部抜粋)

評価軸	評価項目	評価基準	点数
人の目	周囲の状況	フェンスや生垣等で囲まれていない	2
		樹木等によって公園内が見えない部分もあるが全体的に見渡せる	1
		半分以上が建物や高い樹木等によって囲まれている	-1
		殆どが建物や高い樹木等によって囲まれている	-2
環境	ベンチ数	5以上	2
		3~4	1
		1~2	-1
		ない	-2
遊び	遊具の状態 (個別評価し平均とする)	清潔感がある	2
		汚れや使用感はあるが、使用に影響はない	1
		汚れ、錆などが激しく、使用をためらう	-1
		壊れている、老朽化が激しく使用できない状態	-2
交通	車通り	殆ど通らない	2
		時々通行がある	1
		交通量は多くないが、常に車通りがある 常に一定量の車通りがある	-1 -2

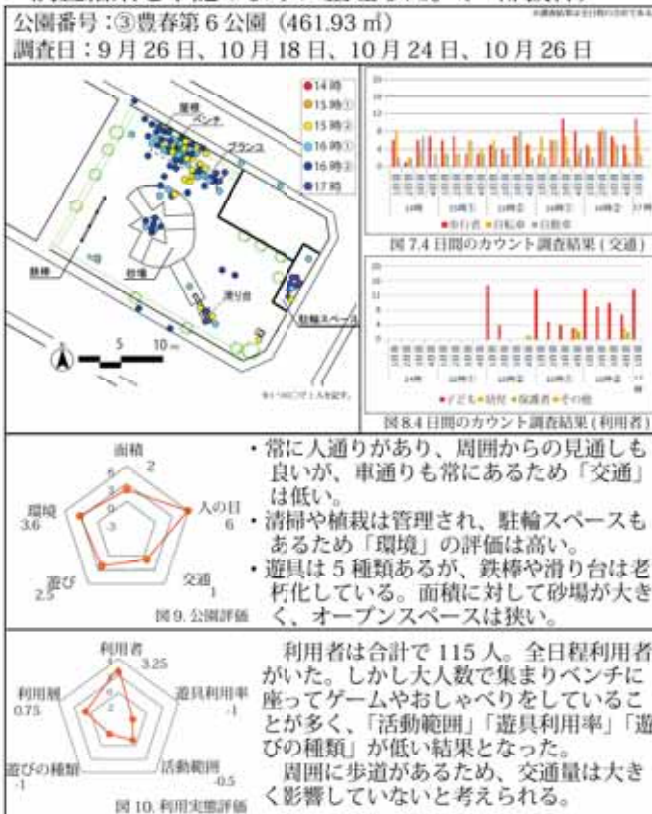
## 5-4. 利用実態評価

5つの評価軸を設け、それぞれについて評価項目を設定し、公園の現状評価と同様に評価した。ただし、利用者数の配点は0～5とした。

評価軸	評価項目	評価基準	点数
利用者	利用者数	1日合計 41人以上	5
		1日合計 31～40人	4
		1日合計 21～30人	3
		1日合計 11～20人	2
		1日合計 1～10人	1
	利用者がいない	0	
利用者層	利用者層	幼児・高齢者など幅広い利用がある	1
		小学生のみの利用	0
		保護者が一緒に公園に訪れている	2
遊具利用率	遊具利用率	公園内にはいないが、時々見に来ることがあった	1
		保護者が公園にいない	0
		ほぼ全ての遊具が利用されている	2
活動範囲	活動範囲	数種類の遊具が利用されている	1
		特定の遊具しか利用されていない	-1
		遊具はほとんど利用されていない	-2
遊びの種類	遊びの種類	公園全体で活動があることが多い	2
		遊具、休息場所に集中するが、全体的に利用される	1
		数か所の遊具や休息場所を中心に活動がある	-1
遊びの種類	遊びの種類	乗り物、ボール、かけっこ遊び等遊具以外の遊びが多い	2
		遊具を利用した遊びを中心に、数種類の遊びがある	1
		遊具を利用した遊び	-1
	ゲーム、おしゃべりなどが中心で活動が少ない	-2	

## 6. 詳細調査の結果

調査結果を下記のように整理した。(一部抜粋)



## 7. 考察

### 7-1. 人通りと利用者数の関係

子どもが公園で遊ぶにあたり、周囲の監視の目があることは子どもにとっても保護者にとっても安心する要因となる。そこで、周囲の監視の目となり得る歩行者と自転車をカウントし、評価した。その結果、人通りが多いほど利用者が多いことが分かり、周囲の目があることが利用状況に影響すると考えられる。

表 7. 遊具の状態と利用者の比較

公園	人通り	利用者数
豊春6	236	115
豊春2	228	123
南中曽根7	150	63
下道	109	116
南中曽根4	94	8
南中曽根3	82	0
豊春1	39	87
南中曽根2	36	0
南中曽根1	21	1
豊春13	10	0

## 7-2. 遊具の数・状態と利用者数の関係

利用実態を見ると、遊具の状態が良いほど利用率が高い。豊春2はブランコと滑り台が新しいものが設置され、南中曽根7には、豊春小学校区内で唯一複合遊具が設置されている。面積が狭くても、遊具にきれいさや新しい魅力があることで多くの利用者があると考えられる。遊具数よりも、その整備状況が良いことが重要である。

表 8. 遊具数と利用者の比較

公園	遊具数	利用者数
豊春2	6	123
南中曽根1	5	1
南中曽根2	5	0
下道	5	116
豊春6	4	115
南中曽根4	4	8
豊春1	3	87
豊春13	3	0
南中曽根7	3	63
南中曽根3	2	0

表 9. 遊具の状態と利用者の比較

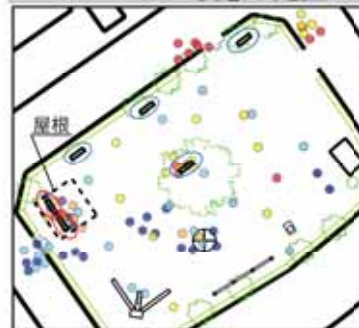
公園	状態	利用者数
豊春2	1.33	123
南中曽根7	1.33	63
豊春1	0.67	87
下道	0.6	116
豊春6	0.5	115
南中曽根1	0.4	0
豊春13	0	1
南中曽根4	0.25	8
南中曽根2	-0.6	0
南中曽根3	-1	0

また、下道は遊具の利用率が低いが、観察調査の結果かけっこ遊びや乗り物遊びが多かった。オープンスペースが設けられていることが、その要因のひとつと考えられる。

表 10. 遊具の状態と利用者の比較

公園	利用率	遊具数	状態
豊春2	2	6	1.33
南中曽根7	-0.25	3	1.33
豊春1	-0.5	3	0.67
豊春6	-1	4	0.5
下道	-1.5	5	0.5

### 7-3. ベンチの状態と配置



4つの公園のベンチの利用に注目すると、状態の良い(清潔さ・素材)ものに集中している。例として豊春1はベンチが6つあるが、座られずに周囲で立ち話をする姿が多く見られた。配置の点では、遊具に近い場所にある方が利用されやすい傾向にあった。また、図から分かるように、屋根がついているベンチの利用率が高かった。大人で集まりやすい環境となっていると考えられる。

### 7-4. 車通りと利用者数の関係

公園に接している道路の自動車交通量が多いと危険だと考え、交通量が少ないほうが利用者が多いという仮説を立て検証した。しかし、想定した結果は得られなかった。豊春6や南中曽根7のように交通量が多くても利用者も多い公園があり、全体的に見ても交通量が多いほうが利用者も多かった。

表 11. 車通りと利用者の比較

公園	車通り	利用者数
豊春13	8	0
豊春1	13	87
南中曽根2	14	0
南中曽根3	14	0
南中曽根1	17	1
下道	18	116
豊春2	77	123
豊春6	83	115
南中曽根4	195	8
南中曽根7	266	63

## 8. まとめ

子どもの遊び場としての街区公園の利用には、周囲の人通りや車通りなどの周辺の交通、遊具・ベンチの整備状態等が関わっている。今後の公園整備において、考慮すべき事項を示すことができた。しかし、それらの項目の関連性や重要度は具体的に明らかになっていない。調査方法の設定も含め、今後の課題となっている。

曜日や時間帯を広げ、1年を通して継続的に調査することで、より正確な評価を行うことができると考える。また、滞在時間や遊びの詳細、植栽の種類・配置など、調査項目を追加することも必要である。

### 参考文献

- 仙田 真, 三輪 律江, 矢野 賢: こどものあそび空間発生性に関する研究
- 木谷 忠, 木村美智子, 今野 浩次: 子どもの遊びの多様性の喪失について
- 人口 堂, 橋本 正晴: 大阪市における児童の屋外遊びに関する調査研究
- 竹原 育美, 斎藤 奈美子: 子どもの屋外遊びを促す空間に関する研究
- 神田 徳蔵: 児童公園等屋外遊び場の利用時間に関する考察
- 西宮 謙, 畑 倫子, 奥田純治, 原田 豊: 保護者による子どもに対する行動制限の要因と子どもの遊びへの影響に関する 実証的研究
- 伊 俊樹, 木多 達也, 鈴木 純, 岡 真美: こどもの遊びの分析を通じた活動の構造的・生態学的モデルの構築